

第3節 健康づくり

1. ヘルシーピープルみえ・21

1. 人材育成のための研修の充実

平成12年度から管内保健従事者を対象としてPRECEDE－PROCEED model (MIDORIモデル 注1) を道具としたヘルスプロモーション(注2) の実践研修を開催してきた。

その結果、平成12年度から北勢町では「糖尿病予防教室」を、平成13年度からは木曾岬町・大安町で「歯科保健対策」を、長島町では「高血圧対策」をMIDORIモデルで展開しており、引き続き管内他市町においても地域性を踏まえた健康づくり事業の取組みを検討する。

(注1) 例題/ 1) 北勢町「糖尿病予防教室」の①から⑤のサイクル

(注2) ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスで、①個人が健康を増進する能力を備えること②個人を取り巻く環境を健康に資するように変えることを柱とする。

2. 市町村支援

管内市町別の健康課題に対して以下のとおり技術支援を行っているところである。

1) 北勢町「糖尿病予防教室」

数年来継続してきた「糖尿病予防教室」の見なおしに、MIDORIモデルを適用して「継続」、「住民主体」及び「セルフエフィカシー(注3)」をキーワードに全7回の教室を運営した。その際、以下の事項を重点項目として実施し、結果として参加者が主体的に教室に参加でき、OB会を結成することができた。

- ①教室開始前に参加者の3因子(準備・強化・実現因子)をアンケート調査で把握し、フォーカス・グループ・インタビューで参加者のニーズ(QOL)を把握した。
- ②フォーカス・グループ・インタビューの結果をKJ法で整理し、今後の自分達の到達目標をみんなで、共有し、セルフエフィカシーを高めるための確認を行った。
- ③自分達の体の状態を客観的に把握するための学習を中心に行い、個別目標を設定した。
- ④保健行動の目標設定とそのための3因子を自ら決定し、その後も参加者自らで決めた内容を盛り込んだ。
- ⑤終了時の評価として、事前調査とリンクしたアンケート調査、フォーカス・グループ・インタビューによる質的調査、個別目標の達成度の自己評価を行い、6か月後の目標再設定を行った。

今後、新しいスタッフや他市町でも同様に展開することができるよう教育プログラムを作成する。

(注3) セルフエフィカシー(self efficacy expectancy)とは、人はある結果を期待して行動をするが(結果期待)、その行動に移る前の行動を行う自信/自己効力感)

2) 長島町「高血圧対策」

健康診査の結果や医療費の統計及び介護保険の介護の必要となった原因疾患などから分析した結果、健康問題として「高血圧疾患」が明らかになり、「高血圧対策」を実施することとなり、保健福祉部として支援を行っている。

長島町での取り組みは、ヘルスプロモーションの実現に向けて、MIDORIモデルに基づいて展開され、住民参加の高血圧を考える会を設置、実態把握のためにフォーカス・グループ・インタビューによる質的調査から得られた住民の生活実態を、量的調査としてのアンケート調査用紙に落とし、調査結果を踏まえ住民・関係者とともに数値目標を設定、そのために必要な保健行動の目標設定、その行動を起こすための要因や環境を分析し、今後展開すべき取り組みは何かを考えていくという手順ですすめられている。

3) 木曾岬町「歯科保健対策」

木曾岬町の3歳児健診でのう歯罹患率及び1人当たり平均う歯本数が、平成元年頃から近隣市町の中でも高値であったことから、平成4年度より幼児歯みがき教室を開催し、むし歯予防活動に取り組んできた結果、漸減してきたものの未だ近隣市町より高値とな

っている。

そこで、木曾岬町の問題点を探り解決策の検討を行うためMIDORIモデルを適用した歯科保健対策を実施することとなり、保健福祉部として支援を行っている。

木曾岬町での取り組みは、3歳児健診対象者に実施したアンケート調査結果に基づいて、健康づくり推進協議会の下部専門部会及び「お口の健康づくり学習会」で、「3歳児のう蝕を3年後に1本にする」という数値目標を設定した。続いて解決すべき保健行動の優先順位と目標値を決定するため、う蝕の原因となる生活習慣や環境因子との因果関係やアンケート調査で福岡市と比べ、好ましくない保健行動の中から改善すると効果が大きくかつ改善しやすいものを基準に「ほ乳瓶に甘いジュースを入れる人を減らす」「フッ素塗布を継続して受ける人を増やす」「甘い味を覚える時期が2歳より遅い人を増やす」ことを行動目標に掲げ、この目標達成のための健康教育プログラムを作成しており、保健福祉部としては、北勢町、長島町、木曾岬町などの取り組みを管内のモデル事例として支援するとともに、引き続き健康課題の明らかになった他市町に対しても順次支援していく。

3. 桑名保健福祉部「喫煙対策事業」

桑名・員弁生活創造圏における健康づくりの取り組みとして、「たばこ」をテーマに地域住民の健康への関心や意識・能力を高め、住民・行政・民間にまで及ぶ関係機関との協働のもとに環境整備を含めた包括的な喫煙対策を展開することにより、健康な地域づくりを目指しているところである。平成13年度はたばこ対策に取り組むにあたり、「喫煙対策協議会」を設置し、デルファイ法（質的調査法）を用いてたばこ対策を進めていく上での課題抽出を行い、その課題を中心に地域の実態を量的に把握するためのアンケート調査票を作成し、調査結果を施策に繋げるという過程を踏んできた。

1) 「喫煙対策協議会」の開催

	内 容
第1回 平成13年12月12日	1. 事業説明 2. 「たばこと健康について」（プレゼンテーション） ・健康づくりとたばこについて ・たばこについて考えてみませんか ・地域における喫煙の現状 3. 「たばこについてそれぞれの立場で現在考えていることを出し合う」（デルファイ法による質的調査）
第2回 平成14年1月11日	1. 「喫煙と健康に関するアンケート調査」説明 2. 各自（所属）の取り組み紹介
第3回 平成14年3月22日	1. アンケート調査結果から施策のターゲットを絞る 目標の設定、保健行動の優先順位・目標設定

2) 「喫煙と健康に関するアンケート調査」の実施

調査対象：管内1市8町の15歳以上70歳未満の住民を対象とする

調査方法：郵送によるアンケート調査

対象者のサンプリング：

管内1市8町住民基本台帳より3,000人程度市町の人口規模に応じて配分

調査内容：基本属性のほか、たばこに関する知識、喫煙状況及び喫煙歴、喫煙のきっかけ、分煙の状況、未成年の喫煙に関すること、たばこのマナー等

13年度の協議会で管内における喫煙対策の施策のターゲットを絞り、14年度は受け皿をどうしていくか、それぞれの所属で取り組むことを具体的に考え、15年度には各々で実施できるように考えていく予定である。

そのために、具体策を検討する部会の設置、実務者研修会の開催等が必要になってくるのではないかと考えているが、保健社部の取り組み内容についても協議会の意見を反映していく。

2. 健康食環境整備事業

総合的な健康づくり対策をより組織的・効果的に推進するため、管内市町や関係団体と協働を図りながら、自主的な健康づくりが生活習慣として実践され定着するように、ヘルシーピープルみえ21の一環として生活習慣病予防を基本とした食の環境づくりを推進した。

(1) 食育推進事業

幼児期から、生涯を通じて健康的な食生活を営める能力を身につけるために、生物を育み、命の大切さを知り、それを適切に食べることを学ぶ「食育」を推進した。

① 研修会

(北勢県民局で合同開催)

場 所: 四日市庁舎 大会議室

出席者

所属施設の種類	出席者数(人)	
	管理栄養士・栄養士	その他
学校	8	2
児童福祉	2	3
行政	4	
計	14	5

(2) 歯科保健

・ 歯科保健教室

障害児をもつ母親を対象にう歯予防、口腔保健に関し、県歯科医師会桑員支部の協力を得て、集団指導を行った。

開催日	平成13年9月6日(木)
開催場所	桑名市療育センター
対象者	入園児とその母親
参加人員	20組40名
内 容	講演「乳幼児の虫歯予防」 歯科健診 ブラッシング指導